

 **MONOist**

 **Tech  
Factory**

# 読者調査連動シリーズ企画 設計・製造現場における品質管理

～絶対的強み「品質と信頼」を取り戻すデジタル活用とは～

お申込締切

プラチナ/ゴールドプラン：2022年9月7日（水）

シルバープラン：2022年9月22日（木）

アンケート実施予定：2022年8月下旬～9月中旬

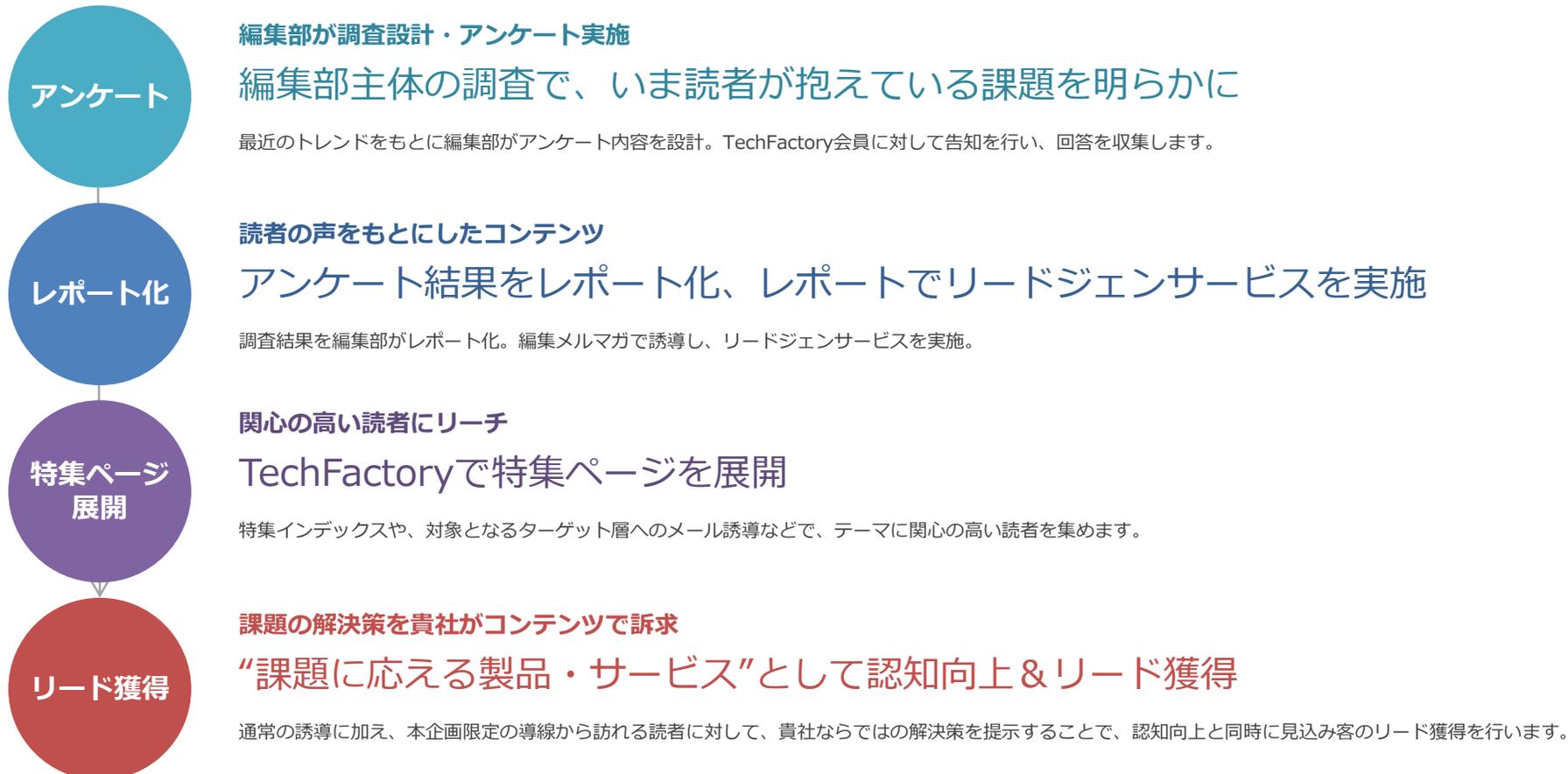
特集期間：2022年10月24日（月）～12月23日（金）



## 読者調査連動シリーズ企画 ～ 製造業の現場で起きている課題と、その解決策

本企画は、TechFactory編集部がテーマを変えて実施する読者調査と連動した広告特集です。協賛企業様には、特集ページへのコンテンツ掲載、並びに調査レポートからの誘導など「課題に応える製品・サービス」としての認知向上と、リード獲得を実現することができます。

### 企画の流れ





## コンテンツなしでもリード獲得可能

アンケート結果をレポート化。そのレポートでリードジェンサーサービスを実施。  
**製造業向けのコンテンツなし**でも興味・関心の高いリード取得が可能です。



## 調査レポートからの誘導

編集メルマガによる特集告知・調査レポートへの誘導を実施。  
編集部作成の**調査レポートからの貴社コンテンツ誘導**も実施いたします。



## お得なプラン

**最大90万円OFF**のプランをご用意。  
本企画限定の特別価格でご提供いたします。

## 絶対的強み「品質と信頼」を取り戻すデジタル技術の活用とは

日本の製造業が世界に対して絶対的な強みとしてきた「品質」。しかし検査不正や偽装が明るみにでるなど、その信頼は揺らいでいます。高齢化や熟練工の不足など喫緊の課題に加え、新型コロナウイルス感染症の影響が直撃し、アナログ業務の顕在化、データ不足・データ連携ができていないという実態を露呈しました。

課題を克服し、日本の製造業の絶対的な強みである「品質」の信頼を回復していくには、以前からの手法・ノウハウに加えて、IoT、AIなど先進デジタル技術を活用した新たな手法や技術を積極的に導入していく必要があります。設計・開発データなどのエンジニアリングチェーン、サプライヤーを巻き込んだサプライチェーンのデータ連携など、「攻めの品質管理」の実現が必要不可欠です。

本特集では、転換期を迎える製造業の品質課題を浮き彫りにすると同時に、品質問題の解決や持続的な品質向上の実現に向けての製造現場での具体的な取り組みや、デジタル技術の活用状況などを調査いたします。

# アンケート内容（抜粋）

現在あなたが品質に関連して課題だと考えていることがあればお選びください（複数回答可）。

- 設計技術者のスキルレベルの低下／品質技術の伝承
- 作業が属人化し過ぎている
- 短納期での設計・開発
- イレギュラーな設計変更の頻発
- 急な生産場所の変更
- データ連携不足（エレ⇔メカ連携不足、設計⇔データ連携不足など）
- ワークフローの問題（チェック機能の不備など）
- 非効率／低品質な試作・検証
- ツール間連携／データ変換でのミス
- 製造設備の問題（生産能力／老朽化など）
- 組織的なコミュニケーションの問題（部門内、部門間）
- 工数不足
- 特になし
- その他

会社全体としてもしくは設計開発部門として「品質」を確保するために、どのような取り組みを行っていますか（複数回答可）。

- ISO9000シリーズの取得
- 設計工程の標準化と手法の確立（フロントローディング、エレ⇔メカ連携の強化など）
- データ連携／データ一元管理の推進・整備
- 試作・検証の効率化
- 定期的な部門間コミュニケーション（企画、製造部門との連携）
- 設計部門内における「品質」に対する教育体制の整備
- 品質確保に貢献するICTツールの活用
- 作業工程の見える化
- 新たな製造設備の導入／リプレイス
- 製造設備の保全体制の改善
- サプライチェーンのリスクマネジメント
- 特になし
- その他

会社全体としてもしくは設計開発部門として「品質」を確保するために、どのような取り組みを「今後行うべき」だと考えますか（複数回答可）。

- 設計工程の標準化と手法の確立（フロントローディング、エレ⇔メカ連携の強化など）
- データ連携／データ一元管理の推進・整備
- 試作・検証の効率化
- 定期的な部門間コミュニケーション（企画、製造部門との連携）
- 設計部門内における「品質」に対する教育体制の整備
- 品質確保に貢献するICTツールの活用
- 作業工程の見える化
- 新たな製造設備の導入／リプレイス
- 製造設備の保全体制の改善
- サプライチェーンのリスクマネジメント
- その他

品質問題に対して効果があると考えるICTツールをお選びください（複数回答可）。

- 3DCAD
- 3Dプリンタ
- CAE（シミュレーション）
- 3Dビューワー／レビューツール
- データ連携ツール
- PLM（製品ライフサイクル管理）システム
- SLM（サービスライフサイクル管理）システム（サービス部門からのフィードバック）
- 文書管理ツール（技術伝承およびノウハウ共有）
- BI（ビジネスインテリジェンス）ツール（データの見える化）
- ビッグデータ分析ツール
- IoTプラットフォーム
- クラウドストレージ（box、Dropbox、Onedrive、Google Driveなど）
- AI画像検査
- AR/VR/MR
- AI
- 設備稼働状況のデジタル化ツール
- センシングデバイス
- ウェアラブルデバイス（スマートグラス、スマートウォッチなど）
- モバイルデバイス（iPadなどのタブレット端末）
- ロボット（協働型など）
- トレーサビリティツール
- 試作支援サービス
- 効果があると考えるICTツールはない
- その他

## 特集ページ展開

- 編集メルマガで特集告知
- バナー広告による特集告知

編集部が作成した調査レポート、並びに貴社コンテンツを特集インデックスページに掲載します。編集メルマガでの特集告知、TechFactory上でバナー広告を掲載することで製造業読者に広く特集を告知いたします。



特集ページイメージ

テーマに関連する編集記事

バナー広告

PDF版調査レポート

貴社コンテンツ紹介



活発に情報収集する読者へのメール配信

## リード獲得

- 調査レポートによるリード収集
- 貴社コンテンツによるリード収集

「調査レポート」もしくは貴社コンテンツを用いて、テーマに則した読者を対象としたリードジェネレーションを実施します。

## 調査レポートイメージ



貴社コンテンツイメージ

# ① プラチナ/ゴールドプラン限定特典

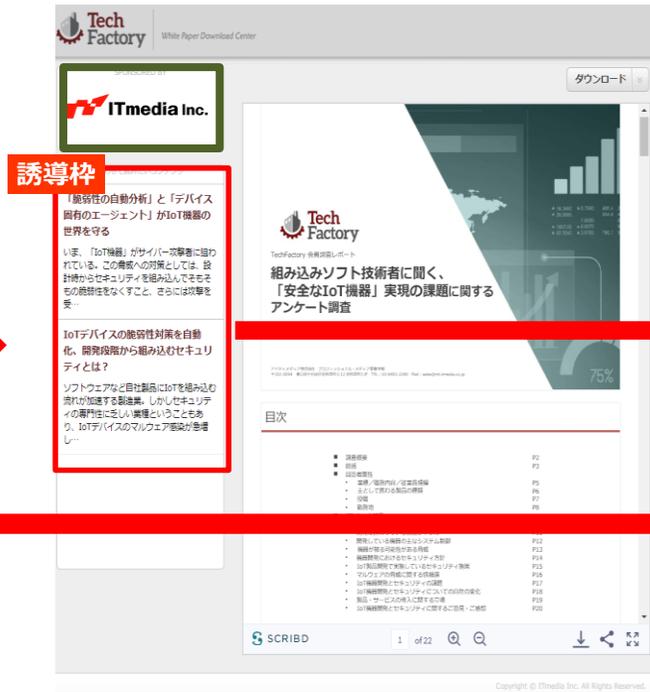
## 特集ページにロゴ掲載

特集ページ イメージ



## 調査レポート閲覧ページに ロゴ掲載&コンテンツ誘導枠

調査レポート イメージ



テーマに関心の高い会員を誘導

貴社コンテンツ イメージ



# ② プラチナ/ゴールドプラン限定特典 (タイアップ記事に限ります)

## MONOist トップページ / 記事ページから、 MONOist 読者を貴社タイアップ記事へ直接誘導



# 調査レポートでのリード獲得について

## 調査レポートを閲覧したテーマに関心の高い会員のリードを獲得

調査レポートを閲覧する=何かしらの課題意識を持って情報収集を行っていると考えられます。特定のプランにご協賛いただくと、PDF版の調査レポートを閲覧した、テーマに関心の高い会員のリード情報をご提供します。

### ダウンロード前アンケート

調査レポートをダウンロードする前に、アンケートに答えていただき、リードの付加情報としてご提供させていただきます。

#### 設問例

- 調査資料の閲覧目的
- 製品導入に関わる立場
- 現在抱えている課題

設問は当社にて設定させていただきます。集合型広告企画のため、個別のご要望には対応いたしかねますので、あらかじめご了承下さい。

### パーミッションの取得

ダウンロード時に、個人情報提供のパーミッション取得を行います。

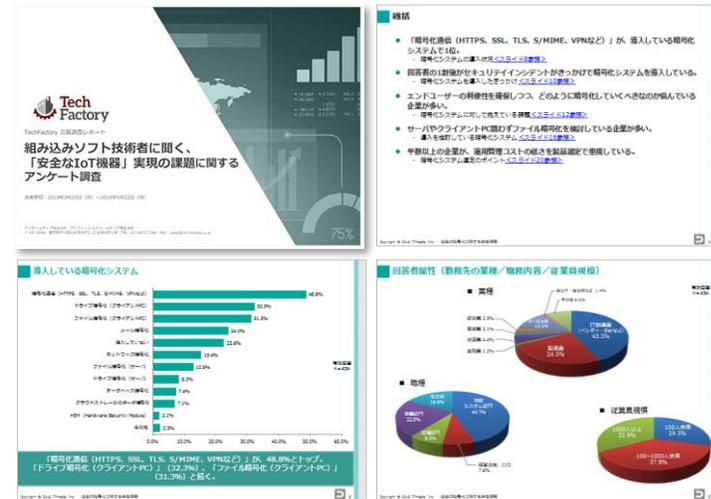
パーミッション文は複数社様の連名になります。集合型広告企画のため、個別のカスタマイズには対応いたしかねますので、あらかじめご了承下さい。



PDF版調査レポート ダウンロードページ

### PDF版調査レポート

アンケートに回答し、個人情報の提供に同意した会員は、調査レポートをPDFでダウンロードすることができます。



### ダウンロードした会員のリード情報



レポートを閲覧した会員のリード情報をご提供いたします。なお、複数社様に協賛いただいた場合は、同じリード情報を全社でシェアする形となります。また、リード情報の納品は、企画終了後となります。

# スポンサープラン

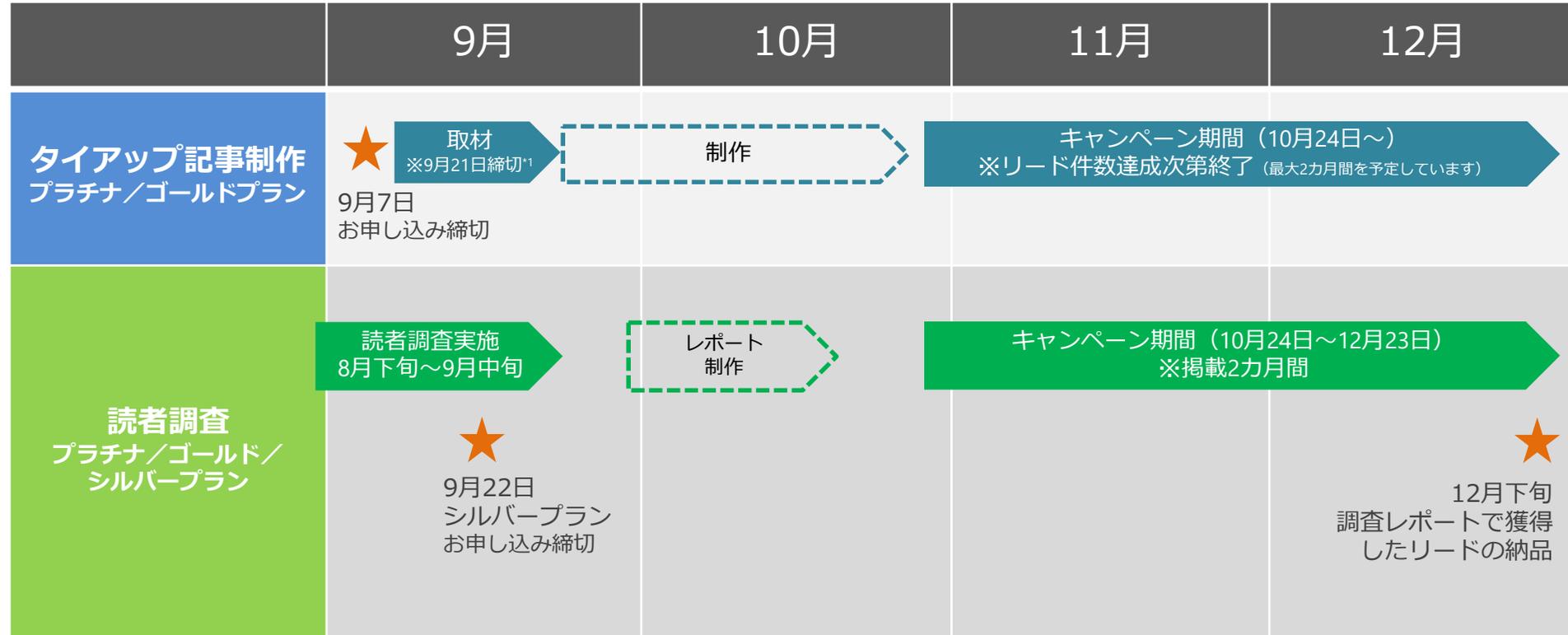
ご提供内容	プラチナ	ゴールド	シルバー	備考
① 貴社コンテンツ リード獲得保証件数	150件	80件	—	属性はセグメントなしになります。 セグメント指定など、プランのカスタマイズは担当営業までご相談ください。
タイアップ	1本	1本	—	
ホワイトペーパー ※お手持ちのコンテンツのご用意をお願いします	1本	—	—	ホワイトペーパーをお持ちでない場合、別途費用が発生しますが制作プランがありますので、担当営業までご相談ください。
② 調査レポートでの リード獲得想定件数	60~100件	60~100件	60~100件	属性はセグメントなしになります。 プランのカスタマイズは対応致しかねます。
③ 企画特典				
特集ページから 貴社コンテンツへの誘導	○	○	—	
編集メルマガでの特集告知	○	○	○	
提供リード数合計 (①+②)	210~250件	140~180件	60~100件	
スポンサー料金	¥1,900,000 (90万円OFF)	¥1,500,000 (60万円OFF)	¥300,000 (20万円OFF)	(税別、グロス)

## ■ お申込み締切

プラチナ/ゴールドプラン : 2022年9月7日 (水)  
 シルバープラン : 2022年9月22日 (木)

※ 協賛企業の状況により実施しない可能性があります  
 ※ 企画開始後のご協賛も可能ですが、開始時期によってご提供できないメニューがある可能性もございます。

# スケジュール



\*1 お申し込み締切間近でのご協賛の場合、取材候補日は事前にご連絡お願い致します。9月21日までに取材を行えない場合、10月24日の掲載に間に合わない可能性がありますので、ご了承ください。  
 ※ 読者調査の回答状況により、キャンペーン日程が変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

# 参考：製品レポート コンテンツサンプル

編集部によるインタビューや外部アナリストによる解説を交えたコンテンツを制作することで、本企画との連動感を高めることができます。企画／制作は編集部にお任せ下さい。

## 貴社製品ご担当者様インタビュー

**ILD Cloud Service:**  
**設計・解析現場のフロントローディング実践をCAEクラウドが救う**

設計・解析現場では、CAEを活用したフロントローディングによる品質の早期作り込みが進められているが、本業である設計・解析業務以外の「システムの管理」が現場担当者には大きな負担を強いているケースも少なくない。この課題を解消する手段として期待されているのが、CAEクラウドサービスの活用だ。

旧来の「コスト削減」や「持たない経営」との強化というより積極的な目的のために、製造工程の上流に位置付けられる設計・解析レーションへの要求レベルがこれまで以上に高ス環境のパフォーマンスや柔軟性に関する課題を十分に覆えたIT人材の不足も相まって、本業である設計・解析業務に集中できる企業は

しかし、現実には目を向けてみると、実際にどうか、その選択に悩む企業も少なくない。事実、品質シミュレーション要求に見合うクラウド設計・解析部門が独自で進めるには仕様のミスマッチ部門主導による、設計・解析者の意向をいできばりのクラウド導入だけは絶対に避け

ここでは、多くの設計・解析現場で導入されて紹介するとともに、製造業におけるクラウド

**“競争力の強化”がこれまで以上に困難な**

しかし、市場変化やニーズの多様化が急速に進む昨今、従来のアプローチだけで競争力を強化することが、これまで以上に難しくなってきた。

SRA ビジネスイノベーション本部 セールスマネージャの高野和吉氏

SRA ビジネスイノベーション本部 セールスマネージャを務める高野和吉氏は、「近年、高性能かつ多機能な製品開発が増え、CAEツールで実行すべき解析モデルが非常に大きくなってきています。その結果、解析時間が長くなり、コストの膨大化や納期の長期化を招いています」と指摘する。

**高まるクラウドへの期待。CAEクラウドサービスの利点とは？**

大規模な解析が必要であれば、計算機（コンピュータ）のパワーを増強する他ない。しかし、どこまでコンピュータリソースを拡張すればよいのか、どうやって適正化すればよいのか、設計・解析者がそれを判断するのは極めて困難だ。また、システム選定やメンテナンス作業などを、設計・解析業務を本業とする現場担当者には強いることが、単なる負担としてだけでなく、重要な製品開発そのものにも影響を及ぼすということを十分に理解しておく必要がある。

参考) 日本アイ・ビー・エム株式会社様

**4つのあるある課題を解消する“オンリーワン”な設計環境**

「ライセンス費を抑えながらも業務に適した専門機能を欲しい」「CADデータの可用性を高め設計作業を効率化したい」「異議のやりとりの手順を軽減したい」「AIがみんなの2D設計から3D設計へ移行したい」——。そんな設計部門のあるある課題を解決する“オンリーワン”な設計環境とは？

ご自身が所属する、あるいは準の設計部門から、以下のような悩みを聞いたことがないだろうか？

- 業務に適した機能を使いたいけど専門ツール（オプション機能）などを別途購入する余裕はない。また、時期によりCADオペレーターの数も変動するため、ツールのライセンスが足りなくなるときもあれば、逆に余るときもあり非常にムダを感じる。
- CADデータの可用性を高め、場所にとらわれないが、USBメモリでの運用ではCADデータのわからない心配だ。
- 他部門や協力会社などと頻りに画面のやりとりのように変更されたのかを確認するのが大変だ。
- そろそろ2D設計から3D設計へと移行したい。できれば、今の2D資産を有効活用

モノづくりを取り巻く環境が大きく変化する中

オートデスク 技術営業本部 アドベントリストラの六浦誠氏

一方、電気制御設計ソリューションの「AutoCAD Electrical」では、電気制御設計に必要なシンボルが用意されている他、回路図の情報から機器配置図を作成する専用機能なども備えている。「いずれも、AutoCAD単体で作図するよりも格段に作業を効率化できる」（六浦氏）という。

さらに、その他のオートデスク製品を含めた本格的な環境として、業界別コレクションも用意。例えば、製造業向けであれば、製品設計、製造プロセス、工場レイアウトなどが可能な「Product Design & Manufacturing Collection」を提供しており、AutoCADはもちろんのこと、「Autodesk Inventor Professional」や「Autodesk Fusion 360」など、豊富なツール群を利用できる。

ご存じの通り、オートデスク製品は全てサブスクリプション方式で提供されているた

参考) オートデスク株式会社様

実施月	テーマ
	4月 研究・開発職のデジタル活用調査
	7月 つながる工場（製造IoT）
	7月 CAD利用動向調査
2022年度	10月 設計製造の品質管理
	10月 3Dプリンタ利用動向調査
	10月 製造現場におけるデータ活用の実態調査
	1月 モノづくり設計者のワークスタイル

※ テーマ、スケジュールは現時点での予定となり、変更になる場合がございます。  
※ 各テーマごとに企画書をご用意しております。詳細は担当営業までお問い合わせ下さい。



お問い合わせ

# アイティメディア株式会社

営業本部

Mail : [sales@ml.itmedia.co.jp](mailto:sales@ml.itmedia.co.jp)

会員プロフィールや特集予定、お問い合わせはこちら

<http://corp.itmedia.co.jp/ad/>

